

2015 年 外来化学療法室・がん化学療法チーム活動報告

がん化学療法看護認定看護師 対馬 理佳
 がん化学療法チームリーダー・消化器医師 永縄 由美子
 化学療法委員会委員長 金戸 宏行

はじめに

当院の化学療法委員会は、発足して 8 年目となる。

現在、化学療法委員会のメンバーは、医師・薬剤師・外来看護師という限られたメンバーから、院内多職種(メディカルソーシャルワーカー・栄養士・検査技師・放射線技師・病棟看護師)に広げ、「チーム医療の推進」及び院内全体での化学療法全般の問題(抗がん剤曝露防止対策・マニュアル策定など)について検討を行っている。

また委員会のもと、外来化学療法室では「安心・安全・確実」なチーム医療を目指して活動している。2015 年の化学療法委員会及び外来化学療法室の活動を報告する。

1. 外来化学療法室の利用状況

外来化学療法室の利用は、2015 年は抗がん剤 896 件、抗がん剤以外(リユープリン®・ゾラデックス®・ゾレドロン酸®・レミケード®など) 693 件で、計 1589 件の利用状況となっている。(図 1)

現在の利用科は 5 科で、外科 44.1%、消化器内科 40.0%、呼吸器内科 12.7%、脳神経外科 3.0%、泌尿器科 0.2%となり、月平均 75 名の利用である。(図 2)

南 1 階の静かな環境と患者に寄り添った看護は、患者・家族にとって安心できる環境にあり、とても好評である。

今後も外来化学療法室の治療が患者・家族のニーズに

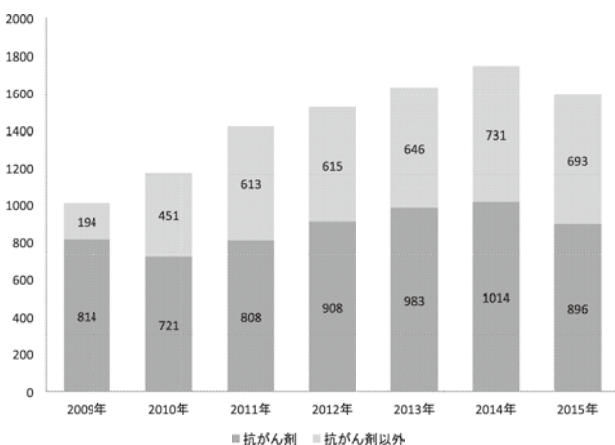


図 1 外来化学療法室の利用状況

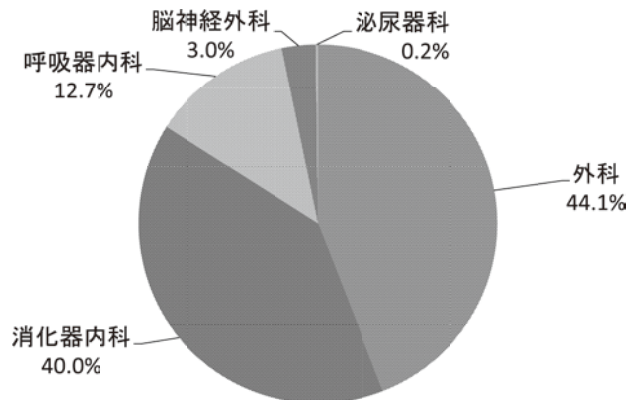


図 2 外来化学療法室の利用科

合わせて満足できる医療・看護・支援を多職種と共に提供していきたい。

2. 新規レジメンの承認、その他

2015 年度は、サイラムザ®、オブジーボ®と新発売の薬剤を含むレジメンをはじめ、胃がん・肺がん・悪性リンパ種・尿路上皮がんなどに対する 8 つのレジメンと 3 つの変更レジメンがあり、合計 11 レジメンが審議・承認された。

その他、アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出治療剤「サビーン®」の発売、採用に伴い、「サビーン®」についての説明と今後の使用手順について、運用マニュアルやフローチャートを作成し、「サビーン®」の説明と同意書」ならびに「運用フローチャート」を処方端末から出力できるようにした。

今後も「安心・安全・確実」な抗がん剤治療を目指して、レジメンの見直しやマニュアルの改訂を行っていきたい。

3. チーム医療の取り組み

1) 院内多職種参加の「症例検討会」の開催

当委員会では、院内多職種による「チーム医療」の推進を目指している。2011 年から外来化学療法室で新規に治療を受ける患者に対して、「症例検討会」を全例に行っている。

メンバーは、医師・薬剤師・病棟外来看護師・メディカルソーシャルワーカー・栄養士で、今後も患者・家族

の立場に立ったより良い医療・看護の提供を目指し、継続していく。(写真1)

2) 院内多職種による「がん化学療法チーム」からの勉強会の開催

患者・家族へのよりよい医療・看護の提供のためには、医療チームメンバー全員が患者を正しく理解する事が重要である。当委員会では、それぞれの専門分野の知識と役割を理解するため、2012年8月より院内各部署から選



写真1 症例検討会の様子

ばれた「がん化学療法チームメンバー」を中心に、月1回の勉強会を開催している。

2015年度は計10回の勉強会を開催している。(表1)

参加対象は院内多職種すべてであり、内容はアンケートにより、興味のある内容を取り上げるようにし、毎回多数の参加があり好評を得ている。(写真2)

今後も化学療法に関する知識を得ると共に、院内多職種の役割を理解し、「チーム医療」に繋げていけるよう、勉強会を継続して行っていく。

3) 「抗がん剤曝露防止対策マニュアル 改訂版」の普及のために

2012年に「抗がん剤曝露防止対策マニュアル」が当委員会で策定された。2014年にはより現場に則した内容に改訂した。

このマニュアルを院内全体に広めるため、がん化学療法チームメンバーによる各部署での勉強会や院内勉強会で発表するなどの啓蒙活動を行った。今後も継続していく必要がある。(写真3)

表1 2015年度がん化学療法勉強会の日程と内容

回数	日付	演 題	所 属	演 者
1	2015/ 6/18	乳がん治療 ～最近の話題～	外 科	奥谷 浩一
2	2015/ 7/16	抗がん剤による皮膚障害対策 ～分子標的薬を中心に～	がん化学療法看護 認定看護師	対馬 理佳
3	2015/ 8/20	最近の抗がん剤の紹介	薬剤師	深山 義敬
4	2015/ 9/17	食道がんの診断と治療について	消化器内科	永縄由美子
5	2015/10/15	がんと障害年金	医療相談	佐久間史好
6	2015/11/19	化学療法時における当院の取り組みと工夫	栄養科	早坂ゆかり
7	2015/12/17	採血時の注意点と検査値への影響	検査科	三室 有璃
8	2016/ 1/21	抗がん剤曝露防止対策のお話	病棟看護師チーム	浅沼秋香子
9	2016/ 2/18	放射線治療ってどんな事をしているの？	放射線科	檜屋 弘明
10	2016/ 3/17	悪性リンパ腫について	消化器内科	佐藤 修司



写真2 がん化学療法勉強会の様子



写真3 がん化学療法チームミーティングの様子

4) 「チーム医療セミナー」への参加

当委員会ではチーム医療推進のため、2010年から積極的に「チーム医療セミナー」への参加を奨励している。

2015年度は6月に「室蘭乳がんチーム医療ワークショップ」が、8月には「室蘭肺がんチーム医療ワークショップ」がそれぞれ製鉄記念病院で開催された。医師・薬剤師・看護師・メディカルソーシャルワーカーがチームを作り参加した。参加するにあたり、1か月前からの各職種による勉強会を行い、知識を深め、当院でのチーム医療について発表した。さらに、他施設との交流を持ち、情報交換できる良い機会となった。

今後も継続してセミナーへ参加し、院内多職種への啓蒙を図っていく。(写真4)

4. 広報活動

がん化学療法チームでは、2015年7月から化学療法新聞「ケモかわら版」を発刊している。内容は院内多職種に向けて、がん化学療法チームの活動報告や、チーム医療セミナーへの参加の感想などを掲載。2015年は年3回発刊する事が出来た。今年2016年は年4回の発刊を目指し、化学療法についての知識・技術やチーム医療活動の状況などについて院内に広めていく。

ま と め

当委員会では、2010年より「がんのチーム医療」推進に向けて院内多職種を対象に活動してきた。院内に少しずつ浸透してきたところである。

また2013年4月には、「北海道がん診療連携指定病院」にも指定され、院内だけでなく、院外の施設や地域住民にも発信を始めており、より広い意味での「チーム医療」が求められてきている。

今後も当委員会は患者・家族へ満足度の高い医療を提供するために「チーム医療」を推進していくと共に、「安心・安全・確実」に治療が行われるよう患者・家族及び院内多職種へ、化学療法についての知識・技術を啓蒙していく。



肺がんチーム：「ファーストステップ」

乳がんチーム：「マンマ・コンシェルジュ」

写真4 がんチーム医療セミナー 市立室蘭チーム